

ビジネスファイル

Business file

フクナガエンジニアリング

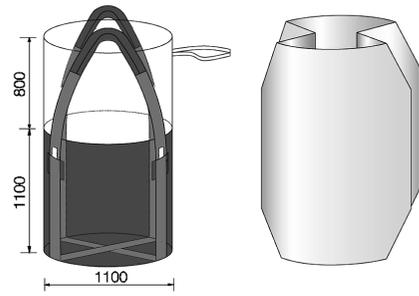
放射性物質汚染物に適したフレコンバッグ 除染などニーズの高まりに対応

フレコンバッグメーカーのフクナガエンジニアリング（大阪市城東区、ソフトバッグ事業部＝06-6969-3632）は、今後本格化してくると見込まれる除染事業などに伴って発生する除染廃棄物や除染土壌などの処理に適したフレコンバッグの提案を開始する。長期保管を見据え、紫外線による劣化を防止する耐候性フレコンや内容物の変質を防ぐアルミ内袋、屋外保管用カバーなど、除染作業の現場で役立つ製品をパッケージで提案していく方針。

同社は金属リサイクル事業の経験から、物流の合理化に寄与する高品質のフレコンバッグの製造を開始。製品ラインアップは約50点に上るほか、特注生産にも対応している。

除染作業向けのものとしては、例えば紫外線劣化防止対策を施して耐候性を重視したフレコン「1100KR-UV3」を開発した。除染作業においては、保管が複数年の長期にわたるケースも想定されることが環境省の「廃棄物関係ガイドライン 第四部 除染廃棄物関係ガイドライン」でも指摘されており、長期保管に耐え得る容器の重要性が高まることが予測されている。こうした状況に対応し、同製品は3年間の耐候性を有している（1年タイプもあり）。サイズは直径110センチメートル×高さ110センチメートルの容量1000ℓ。2点ベルトで、耐荷重は2トン。

また、除染廃棄物は水分を含んでいたり腐敗性のものであったりと、多様な性状であることが予想される。保管の際に、吸湿による内容物の変質・劣化やにおい漏れな



耐候性フレコン「1100KR-UV3」(左)
とアルミ内袋(イメージ)

どを防ぐため、アルミはくの層で防湿性・気密性を高めるアルミ内袋を製品群に加えた。ポリエチレン製の内袋も従来から取り揃えており、選択の幅を広げた。

ほか屋外保管用カバーや荷札など、付属品も充実。同ガイドラインでは、保管している除染廃棄物への雨水等の浸入を防ぐことや、収集した時期や場所、状況などを明記して保管することなども示されており、それに対応した品揃えとなっている。

東日本大震災関連ではこれまで、災害廃棄物処理向けに多様なフレコンバッグを受注、納入している。スタンダードなものから、汚泥を洗浄処理するための水切り型のものや、逆に内袋を使用して水密性を高めたものなど、用途に応じた多様なニーズに対応してきている。

とりわけ水切り用のものなどでは、生地目の網目を粗くすることで通気性・通水性を高めたものや、排出口が付いているものなど、災害廃棄物独特の性状に対応したものなどの要望が多く、現地で水分を取って保管する使用法などが多いという。こうした経験を生かし、今後も災害廃棄物や除染廃棄物関連の事業に取り組むとしている。